



Hachildren

～つくって、あそんで、つながる、はちのへアートじかん～

八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 渡邊ゼミ



はじめに

「Hachildren」は、「アート×教育×地域」をテーマに、子どもたちと地域と学生がつながる新しい保育支援の形を目指すプロジェクトです。令和7年4月から12月にかけて、八戸市内の保育施設で4～6歳の園児や地域の幼児・児童を対象に実施しました。

目的と背景

本プロジェクトは3つの目的を掲げています。第一に保育の質の向上と支援、第二に子どもの創造的な育ちの支援、第三に学生主体の地域貢献と実践学習です。近年、共働き世帯の増加に伴い保育施設の役割がより重要になっている一方で、現場では時間や人手の不足から、創造的な遊びや表現活動に注力しづらい現状があります。学生がアートを活用して子どもたちの創造性を引き出す支援を行うことで、この課題に対応する新たな可能性を探りました。

活動内容

ワークショップの中心は造形活動です。学生が教材を企画・制作し、子どもたちとの対話を大切にしながら共に作品をつくり、遊びます。活動では、発達段階・興味関心に即した設計、安心できる環境づくり、学生×子ども×地域の協働を3つの特色として重視しました。

活動実績

10月11日（八食センター）：魚釣りゲーム、スライムづくりのワークショップ

11月21日（第二しののめ幼稚園）：ストラックアウト、ピタゴラスイッチ、マリオカートの造形ワークショップ

11月26日（第二しののめ幼稚園）：廃材を使った弓矢づくりのワークショップ

成果と学び

子どもたちの反応は、想像力を広げながら夢中で遊ぶ姿勢、疑問を持ちながら学びを深めようとする様子が観察されました。学生は「子どもが楽しくなるような声掛けをする工夫」「遊びの幅を広げるような問いかけ」「個別差への配慮」などを実践的に学びました。また、役割分担の明確化と臨機応変な対応、チームワークの重要性も実感できました。

課題と今後の展開

実践を通じて、活動前の安全対策と耐久性検討の不十分さ、複数の遊びの同時提供の必要性、異なる年齢の子どもに対するルール設定の工夫などが課題となりました。今後は、活動を通して見つけた課題から、継続的な学びと実践の改善に取り組む予定です。

まとめ

Hachildrenのプロジェクトは、学生による実践的な保育支援を通じて、子どもの創造的な成長を促しながら、学生自身の専門性向上と地域への貢献を目指しています。今後も、声掛けと関わり方の工夫、準備と役割分担の工夫、安全性の確保という課題に向き合いながら、より質の高い支援を検討していきます。

